

Overview: 神の永遠の定められた御旨は、神の聖なる建造を持つことです(I)。私たちは、建造のビジョンを見るために、命において円熟し(II)、見るための正しい地位、立場、角度を持ち(III)、神の裁きを経過して資格づけられ(IV)、目で見、耳で聞き、心にとめ、宣言する(V)必要があります。VIからXは、神の家の建造の際立った特色、すなわち、壁、城門(外側の敷居、通路、内側の敷居、廊)、内庭、外庭、祭壇、北側と南側にある聖なる部屋についてのビジョンです。

I. 神の永遠の定められた御旨は、神ご自身と彼の選ばれた民とのミングリングとしての建造を持つことです。神が彼の民の間で、また地上の諸国民の間で行なうことは何であれ、彼の建造のためです。これは啓示録によって確認されます。啓示録はエゼキエル書と並行しており、神の究極の建造、すなわち新エルサレムをもって結んでいます：**啓21:10** **そして彼は私を霊の中で、大きな高い山へ連れて行き、聖なる都エルサレムが、天から出て神から下って来るのを私に見せたが、**
A. ソロモンが建てた宮が破壊された後、バビロンから帰還した捕囚の民によって、宮は再建されました。
B. 後ほど、この宮は、四十六年かけて建てられたヘロデの宮に置き換えられました。ヘロデの宮は紀元70年に、タイタスの下にあるローマの軍隊によって破壊されました。
C. エズラの時代の宮もヘロデの時代の宮も、ソロモンが建てた宮の完全な回復ではありませんでした。しかしながら、エゼキエルのビジョンの宮は、ソロモンの宮の完全な回復を超えるものでした。宮そのものはソロモンが建てた宮と同じ大きさでしたが、エゼキエルのビジョンにおける城門、庭、宮の周りの建物に関する多くの詳細は、ソロモンの宮の拡大を示しています。
D. ですから、アブラハムの天幕に始まり、幕屋に進展し、そしてソロモンの宮に進展し、エゼキエルのビジョンにおける宮をもって終結し、旧約における神の建造の拡大における継続的な進展があります。この拡大が表徴するのは、神の民がキリストを経験することにおいて継続的に増し加わることです。
E. 新約における神の霊的な建造は、神の幕屋また神の宮としてのイエス・キリスト、すなわち肉体と成った神に始まり、キリストの拡大としての召会、すなわちキリストのからだに前進し、永遠における神の建造の究極の現れまた拡大としての新エルサレムをもって究極的に完成します。
F. エゼキエル書第40章から第48章における神の聖なる建造に関するビジョンは、文字どおりには復興の時に成就されます。その時、復興されたイスラエルは、千年期に神と共に住むために、宮とエルサレムの都を再建します。

VI. 家の周囲の壁は、神に属するものを、彼に属することができないものから分離するためです：エゼキエル40:5** 見よ、家の外側の周囲に壁があり、その人の手に長さ六キュビトの測りざおがあって、このキュビトはそれぞれ一キュビトと一フアであった。彼がその建築物の厚さを測ると、一さおであり、その高さも一さおであった。**
A. 壁の厚さと高さはいずれも六キュビトです。ですから、壁の交差する部分は、六キュビトと六キュビトの正方形です。
B. 六の数は、六日目創造された人を表徴します。ですから、六キュビトの正方形の交差する部分がある壁は、真っすぐで、完全で、全体的な人としてのキリストご自身を表徴します。
C. そのようなキリストは、神の建造の分離する線です。キリストの中に含まれているものだけが、神の権益と神の建造に属します。エペソ2:21** その方の中で、建物全体が共に組み合わせられ、主の中にある聖なる宮へと成長していき、**

II. エゼキエルは最初のビジョン、すなわち主の栄光の現れのビジョンを見た時、三十歳でした。それは祭司が機能し始める年齢です。彼は最後のビジョン、すなわち神の聖なる建造のビジョンを、二十年後、五十歳の時に見ました。それは祭司が退く年齢です。これは、エゼキエルが神の建造を見るために、命においてさらに円熟する必要があったことを示しています：

エゼキエル40:1 私たちの捕囚の二十五年目、その年の初め、その月の十日、都が打ち倒された後、十四年目のその同じ日に、私の上にエホバの御手が臨み、彼は私をそこへ連れて行かれた。

A. 年の初めは、神の建造のビジョンが私たちに新しい開始にもたらすことを示しています。
B. 第一の月の十日は、イスラエルの民が過越の小羊を用意した日でした。これが示しているのは、私たちのクリスチャン生活のあらゆる新しい開始が、キリスト(過越の小羊)と、彼の贖いに基づいているということです。

III. 神の聖なる建造のビジョンを見るために、エゼキエルは捕囚の地から、イスラエルの地(神が彼の民に割り当てた分け前としてのすべてを含むキリストの予表)にある、またエルサレムの都にある高い山(キリストの復活と昇天を表徴する)に連れて行かれました。これは、エゼキエルがそのようなビジョンを見る正しい地位、立場、角度でした。エゼキエル40:2** 彼は神のビジョンの内に、私をイスラエルの地へ連れて行き、非常に高い山の上に下ろされた。その上の南に、町のような建築物があった。**

IV. 建物の城門の所にいる青銅の人はキリストです。青銅は、神の裁きによって試験されることを表徴します。キリストは神の裁きを経過して、完全に資格づけられ、神の建造に属するものを測ります(裁くことによって所有します)。

V. 「その人は私に言った、『人の子よ、あなたが目で見、あなたの耳で聞き、私があなたに見せるすべてのことを心にとめよ。あなたがここに連れて来られたのは、それをあなたに見せるためである。あなたが見ることをみな、イスラエルの家に告げよ。』(エゼキエル40:4):

A. 神が彼の建造のビジョンをエゼキエルに見せていたとき、預言者は鋭敏な視力を持って、一心に聞く必要がありました。
B. さらに、彼は見せられたものを吸収するために、それらに心を置かなければなりません。そのとき彼は神の民に、見て聞いたことをすべて宣言することができました。

VII. 城門は四つの区分に分かれています。すなわち、外側の敷居、通路(庭)、内側の敷居、廊です：

A. 城門は神の建造の入り口として、私たちが神の中へと、また神の権益、神の建造、神の王国の中へと入る門としてのキリストを表徴します。壁は罪人を神から分離しますが、城門は人々を神の中へと、また神の建造の中へともたらします。
B. 城門のそれぞれの側にある三つの詰め所が表徴するのは、詰め所がパースン、すなわちキリストご自身であり、彼は三一の神(三)が人(六)と成り、十字架上で「裂かれた」ということです：エゼキエル40:10** 城門の一方の側に三つの詰め所、もう一方の側に三つの詰め所があり、三つとも同じ寸法であった。1. 六つの詰め所はそれぞれ六キュビトの正方形であり、それゆえに壁の交差する部分と同じ大きさです。これが示しているのは、主イエスが彼のパースンと働きにおいて、神の栄光と聖の保護であるということです。**

2. 城門としてのキリストを経過することによって、私たちは資格づけられ、神の栄光と聖に満ちた神の建造の中へと入ります。
C. 廊の幅は六キュビトであり、六の数は六日目に創造された人を表徴します。廊の長さは八キュビトであり、八の数はキリストの復活を表徴し、それは新しい開始として新しい週の初めの日に起こりました：
1. これらの寸法が表徴するのは、主イエスが人として、神の建造の城門であり、完全に復活の中にあるということです。
2. これらの寸法がまた表徴するのは、私たちが廊に到達するとき、復活の中に、新しい開始にいるということです。

D. 城門の入り口の幅は十キュビトでした。ここの十の数は十戒を暗示します。これが示しているのは、十戒が要求することは何であれ、城門の入り口が満たすということです。主イエスは「正方形の」、真っすぐで、完全な人として、十戒のすべての要求を満たし、私たちが神の建造の中へと入るための城門となりました。ローマ8:3** 神は、…ご自身の御子を罪の肉の形で、罪のために遣わし、肉において罪を罪定めされました。4 それは律法の義の要求が、肉にしたがってではなく、霊にしたがって歩く私たちにおいて、満たされるためです。**

E. 城門の柱にあるしゅろの木が表徴するのは、神の聖と栄光の保護であるキリストが、永存する、勝利の方であり、立ち、担い、支え、勝利するというものです。しゅろの木は荒野で生長し、常緑であって、勝利と永存する力を表徴します。キリストは柱であり、勝利の、永存する命をもって神の建造を支え、担います。

F. 外庭の東、南、北の側の壁の内側の周りに敷石の六つの異なる区分、あるいは領域があり、それぞれの区分には五つの部屋があり、全部で三十の部屋でした。敷石の上にある三十の部屋に加えて、四つの小さな庭が、外庭のそれぞれの隅一つありました。これらは、民が食べる犠牲を煮る場所でした：**1.** 敷石はおそらく石できており、私たちが石とする再生の立場を表徴し、私たちをこの世の汚れから分離します。**2.** 部屋は、民が犠牲を食べた場所でした。それが示しているのは、その部屋が、民が犠牲またささげ物としてのキリストを享受した場所であったということです(祭司は内庭で食べましたが、民は外庭で食べました)。**3.** 私たちは神の住まいの城門を経過した後、外庭に来て、部屋へと入り、私たちの再生の「石」の上に立ち、キリストを食べて享受します。彼はすべてのささげ物の実際です。

VIII. 内庭への城門の詳細は、外庭への城門の詳細と同じであり、私たちが内庭へと入るとき、キリストに対する経験を繰り返すことを示します。私たちが経験するのは同じキリストですが、彼に対してさらに多く経験します：

エゼキエル40:31 その廊は外庭に面し、しゅろの木がその柱の上にあり、その階段は八段であった。ピリピ3:10 キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、11何とかして、死人の中からの格別な復活に到達するためです。

A. 内庭への入り口に、別の一組の階段があり、八段から成っています。これは、私たちが神の建造の経験において内側に前進すればするほど、ますます高くなることを示します。

B. 八の数は復活を表徴します。これは、私たちが内庭へと入って行こうとするなら、復活の中にいる必要があることを示します。すべての天然の命と天然の人は廃棄され、十字架によって除去されなければなりません。

C. 部屋は、おそらく内庭の北の城門の内側にあり、祭司が全焼のささげ物を洗うためでした。これは、私たちの経験のこの時点で、私たちが神のための全焼のささげ物となる用意があることを示します：

1. 私たちは内庭への城門を経過するとき、復活の中に、さらに高い層にいます。

2. ここで、私たちは単に外庭にいる一般の民ではありません。私たちは祭司となりました。祭司は、全焼のささげ物をささげることによって、主に対して務めをする用意があり、それは主に対して絶対的になる用意があることを意味します。

D. 祭壇は、キリストの十字架を表徴し、神の聖なる建造の中心であるだけでなく、神の聖なる建造の周囲でもあります：

1. 十字架は、城門、犠牲を食べること、煮る家、犠牲がほふられる食卓において暗示されます。ですから、十字架はあらゆる方向に、神の建造の隅々にまで拡大します。私たちは神の家で神と接触し、彼の豊富を享受したいなら、十字架を経過しなければなりません。

2. 十字架上の死は神にとっては解放であり、人にとっての消極的な事物にとっては終結でした。キリストの死において、神は人の中で死を経過して解放され、人は神の中で死んで終結させられました。

IX. 祭壇は十字架を表徴し、宮はキリストと召会(キリストのからだ)を表徴します：

A. 十字架、キリスト、召会は、新約の中心な主題であるだけでなく、全聖書の中心な主題でもあります。祭壇が宮の前に立っているのは、十字架がなければ、私たちは召会を持つことができないことを示します。私たちが十字架を経過してはじめて、召会の実際を持つことができます。

B. 私たちが生活と働きの中で行ない、言うことはすべて、十字架を通して、またその霊によってであるべきであり、キリストを他の人の中へと分与して、キリストのからだを建造するためであるべきです。

C. 宮の高さは内庭より十段高く、宮の外側の高さより二十五段高かったです。これは、私たちが神の建造を経験するとき、内側に前進して行けば行くほど、ますます高く上ることを示します。

D. エゼキエルが円柱の寸法を与えていないという事実が示しているのは、それが無限で計り知れない支える力を表徴するという事です。ですから、それぞれの柱のそばの二本の円柱は、神の証し(二)としてのキリストが、無限で計り知れない力をもって神の家を担っていることを表徴します。

E. 廊の入り口の幅は十四キュビトであり、外側の宮(聖所)への入り口の幅は十キュビトであり、内側の宮(至聖所)への入り口の幅は六キュビトでした。これが示しているのは、私たちが神の建造を経験するとき、内側に前進して行けば行くほど、道はますます狭くなるということです。私たちは主に近いならばなるほど、ますます彼によって制限されます。

F. 壁の厚さに関する六の数は、神の住まいの立つ力としての主イエスの人性を表徴します。幕屋において、真っすぐに立っているアカシア材の枠板も、主イエスの人性を表徴します。主イエスは正常な人として、神の建造の立つて支える壁です。

G. 表現のための三十の脇間は、享受のための三十の部屋に基づいています。私たちがキリストを享受した程度だけ、彼を表現することができます。私たちがキリストを享受することは、最終的にキリストの豊満、表現となります。

H. 脇間が上るごとに広がっていることは、私たちが主と共に高い所へ行くごとに、経験においてますます広く、豊満になることを示します。これは、神の聖なる建造に対する経験が前進することを示しています。

I. 宮と関係のある建物のすべての部分は、木の羽目板が張り巡らされていました。木はイエスの引き上げられた人性を表徴します。エゼキエル書において、神の建造の主要な材料は、十字架につけられ、復活、昇天したイエスの人性です。

J. すべての木の羽目板を張り巡らしたのものの上に、ケルビムとしゅろの木が彫刻されました：

1. ケルビムは、被造物の上に現される主の栄光を表徴します。荒野で生長する常緑のしゅろの木は、キリストの勝利とキリストの永続し永存する力を表徴します。**2.** 壁の上にあるしゅろの木の彫刻とケルビムは、キリストの勝利と主の栄光が、苦難を通して私たちの存在の中へと「彫刻」されていることを示します。

3. エゼキエル書第1章で、ケルビムには四つの顔がありましたが、壁の彫刻にはただ二つの顔、人の顔と獅子の顔があり、それは人性における勝利を表徴し、表現します。

4. 二つのケルビムごと一本のしゅろの木があったという事実は、私たちが神の建造の一部分として、キリストの栄光のかたちが現れるとき、キリストの勝利を現すことを表徴します。

K. この宮の中に立っている香壇は、木だけでできており、木はイエスの人性を表徴します：

1. 幕屋と宮の中に、香壇と臨在[供え]のパンの机がありました。しかしエゼキエル書のここで、香壇は食卓(机)でもあります。香壇は、私たちが香としてのキリストを神にささげ、彼に満足していただくためであり、食卓は、神が食物としてのキリストを備え、私たちを満足させるためです。

2. 木の香壇が置かれた場所には、ケルビムとしゅろの木が彫刻された木の羽目板がありました。これが示しているのは、私たちがキリストの栄光と勝利を現す者であるなら、香壇・食卓を持って、神と私たちがキリストの中で共に交わりを持つということです。ここで神は、私たちがキリストの中でささげる香によって満足し、私たちは、神がキリストの中で供給する食物によって満足します。

L. 召会の中で、「扉」の機能は、積極的な人や事物を入らせ、消極的な人や事物を出させることです。それぞれの扉に二つの折り戸があるという事実は、召会の中の扉に柔軟性があるべきであることを示します。

M. しゅろの木が窓のそばの壁に彫刻されていたという事実は、勝利と永続する力、強さが、常に霊的な空気と神聖な光と並行することを示します。これは、私たちの勝利と力が命を与える霊と関係があることを意味します。私たちが命を与える霊を享受するなら、キリストの勝利、力、強さも享受します。

X. 北側と南側に位置する聖なる部屋は、内庭と外庭を結び付ける建物です：

エペソ3:16 どうか御父が、彼の栄光の豊富にしたがい、力をもって、彼の霊を通して、あなたがたを内なる人の中へと増強してください。17 またキリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように。…19…あなたがたが満たされて、神の全豊満へと至るように。

A. 外庭の敷石の上にある部屋は、民がささげ物を食べるためですが、聖なる部屋は、祭司がささげ物を食べ、またささげ物を置いて蓄え、彼らの祭司の衣服を置くためです。ささげ物は、私たちの享受としてのキリストを表徴しますが、祭司の衣服は、私たちの表現としてのキリストを表徴します。

B. 聖なる部屋で、私たちは霊的な経験の最高峰に達します。聖なる部屋で生活することは、キリストの中で生活することであり、聖なる部屋でささげ物を食べることは、キリストを食べることであり、聖なる衣服を着ることは、キリストを着て彼を表現することです。

C. 聖なる部屋は脇間のように、三つの階になっており、キリストの豊満、表現に符合することを示します。祭司はキリストを享受して、彼らの部屋の高さがキリストの豊満の高さと等しくなるまでになります。

経験①: 命において成長して、高い山に行き、鳥瞰的に神の建造のビジョンを見る

何かを正しく見るために、私たちは正しい地位、正しい立場、正しい角度を必要とします。もし地位や立場が間違っているなら、私たちは見ることはできません。…私たちは神の建造を見たいなら、エルサレムの山の上にいる必要があります。

もしエゼキエルが捕囚の中でバビロンにとどまっていたなら、建造を見ることはできませんでした。同じように、もし彼が平野にいて山頂にいなかったなら、神の建造のビジョンを見ることはできませんでした。ですから、私たちはこのビジョンを見ようとするなら、成長して上って行く必要があります。これは、私たちが命における円熟を必要とし、高い山の上にいる必要があることを意味します。そのとき私たちは神の建造を見ることができます。

啓 21:10 そして彼は私を霊の中で、大きな高い山へ連れて行き、聖なる都エルサレムが、天から出て神から下って来るのを私に見せたが。

FT「高い山」: 大きな高い山は、第 17 章 3 節の荒野に相対します。ヨハネはバビロン、大遊女を見るために、荒野へ連れて行かれました。ヨハネは花嫁、新エルサレムを見るために、大きな高い山へ連れて行かれました。私たちは、「高い山」へ引き上げられる必要があります。それは神の永遠の定められた御旨を実現するための、神の住まいを見るためです。

在職青年編

ビジネス・パーソンとして、あなたはプロジェクト・リーダーでなくても鳥瞰的に全体を見て、そのメイン・ストリートとゴールをはっきりと見る必要があります。日本人は、鳥瞰的に物事を見るのが苦手で、詳細から物事を見がちです。しかし、小道から入ると、迷路に入ってしまったら、ゴールやメイン・ストリートを見失いがちで、効率が非常に悪いです。あなたは、仕事を遂行する上で、鳥瞰的な見方と、そこから見る事ができる重要な点をまず見極める必要があります。そのうえで、必要に応じて、詳細に入っていくてください。そうすれば、あなたは、業務遂行能力を著しく改善することができるでしょう。

同様に、神のエコノミーのゴールである神の建造、新エルサレムを見るために、あなたは霊の中で高い山に行き、神の建造のビジョンを見なければなりません。神の建造のビジョンがなければ、あなたは忙しく奉仕をしても、ゴールがないので、奉仕において力がなく、目的もありません。様々な奉仕があっても、その目的はひとつしかありません。あなたが神の家の建造のビジョンを見ることは、あなたの奉仕を強め、引き上げ、祝福に満ちたものにします。また、このような召会生活は、あなたが会社において鳥瞰的な見方を持って業務を遂行することも助けます。

兄弟の証し: 私は、会社の社長やビジネスのリーダー、米国コーポレート本社の反対の中で、ある重要なプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトには、およそ400のタスクがあり、非常に複雑なものでした。会社の中の様々な部門が関連しており、プロジェクトを確実に遂行するのは非常に難しい業務でした。そのような時、米国コーポレート本社の日本担当の社長が、私のオフィスを訪ねてきて、このプロジェクトはあまりにも複雑なので、これ以上進めないように説得しに来ました。私は彼との会話の中で、重要な点を3つ挙げる必要があると感じ、その場で重点を3つ考えて、次のように言いました、「このプロジェクトには、3つの重要なポイントがあります。一見複雑なようで、実際には単純明快です。このプロジェクトは、必ず会社に大きな利益をもたらしますので、是非協力してください」。その社長は、次のように言いました、「分かりました。しかし、多くの人の労力を強いるので、失敗したら責任を取ってください」。

ここで、半分だけでも彼を説得できた理由は、私が会話の中で、約1~2分の間に、プロジェクトの重点(Crucial Points)1、2、3を説明できたことによります。なぜそれができたかというと、普段から鳥瞰的に物事を見る訓練をしていたからです。また、消極的に、失敗したらどうしようとは考えず、積極的に、会社の将来のためにこのプロジェクトを実行しなければならぬと考えて、信仰によって、大胆に、「必ず成功させます」と答えたのです。結局、このプロジェクトは、会社に最も大きな利益をもたらすものとなり、私が考えていた以上に祝福されました。主を賛美します。アーメン！

経験②: 十字架は、すべての消極的な事物を終わらせ、神の豊富を解放する

神と人は死の道において十字架で共に会いました。…しかしながら、神が死に影響されることはあり得ません。…十字架上のキリストの死は、神にとってはすばらしい解放であり、私たちにとってはすばらしい終結でした。私たちはみなこの祭壇のビジョンを必要とします。…神の豊富が十字架で解放され、すべての消極的な事物はそこで終わらされました。

私たちは一度で永遠に十字架を経験するものではありません。私たちは何度も十字架を経験します。主を追い求める者は、至る所で十字架に会います。…彼らは、子供たち…配偶者…あるいは病を通して十字架に会い、…召会を通して、あるいは同労者を通して十字架に会います。十字架が至る所にあるのは、私たちが十字架を経過して、神と接触しなければならないからです。主に感謝します。神は私たちに十字架を与えてくださり、十字架は私たちに神を与えます。最も神を愛し、最も彼を経験する者は、十字架を経過している者です。

中高生/奉仕編

十字架は、人の観点から言うと悲しいことですが、霊的な観点を持つとそれはすばらしいものです。十字架において、罪、サタン、この世、古い人は終わらされ、神聖な命が解放されました。

「古い私」ガラテヤ 2:20 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。

「古い人、罪の体」ローマ 6:6 私たちは次のことを知っています。私たちの古い人が彼と共に十字架につけられたのは、罪の体が無効にされて、私たちがもはや、罪に奴隷として仕えることがないためです。

「悪魔サタン」ヘブル 2:14 こういうわけで、子供たちが血と肉にあずかっているのも、同様に彼ご自身も同じものにあずかられたのです。それは、彼が死を通して、死の権能を持つ者、すなわち悪魔を滅ぼすためであり、

「この世」ガラテヤ 6:14 しかし、私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇るようなことが断じてあってはなりません。その方を通して、この世は私に対して十字架につけられ、私もこの世に対して十字架につけられてしまったのです。

「命の開放」ヨハネ 12:24 まことに、まことに、私はあなたがたに言う。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、それが死んだら、多くの実を結ぶ。

あなたは中高生の時から、十字架の全ての消極的なものを終結させるすばらしい効果を経験してください。例えば、あなたはとても短気で焦りやすい人です。あなたはこれまで、この焦りによって失敗してきました。このような失敗を繰り返したくないと考えるのですが、環境が起こるとまた焦ってしまい、同じような失敗を繰り返してしまいます。あなたに必要なのは、あなたの焦るという欠点を伴う古い人を終結させることです。ところが、あなたがどれだけ努力しても、古い人は死にません。しかし、キリストの十字架の効果に感謝賛美します！あなたに必要なことは、心を開き、霊を活用して、主の御名を呼び、その霊の豊かな供給を受けることです。その霊の中には、十字架の終結する効果があるので、その霊があなたの内側であなたの古い人を終結させることができるのです。十字架の解放のゆえに、ハレルヤ！

十字架のすばらしい効果は、あなたの奉仕においても経験し、享受することができます。奉仕をする時、自分の特異性や規定が出てきます。主の光のもとであなたは、これらの特異性と規定が、兄弟姉妹との組み合わせの中で奉仕することを妨げていると照らされます。このような時、あなたは、「しょうがない」と言って開き直ったり、または「自分はダメな者である」と言って落ち込んだりしてはいけません。そうではなく、奉仕によって自分の欠点が暴露され、十字架を経験し、前進して、兄弟姉妹と一の中で奉仕してください。そうすれば、あなたは奉仕の中で神の豊富を解放して、周りの兄弟姉妹を祝福することができます。アーメン！

606 召会—その建造

- 1 自己、てん然を捨て、けんぞうされて、ともにみやとなり、えいこう満たす。たかぶり、たんどく、とく異せいを捨て、主の權威にふくし、主の住まいとなる。
- 2 せい長し、変えられ、供給し、建造され、機のを果たして、ひとをじょう就す。自分にぞくすもの、たかくひょう価せず、すべてかたよらず、きん衡をたもつ。
- 3 かしらにつながり、主の豊富、享受す；かみ増しくわり、円じゆくにいたる。主のあいを知って、かん全にせい長し、キリストの豊満の身のたけとなる。
- 4 み住まい、からだに、けんぞうされて、主のうつわとなり、えい光あらかわす。はなよめ、みやこは、いまや地上にあり、なが栄こう照らし、ひとにかがやく。

606 召會—建造

1. 救我脱离自己、天然，主阿，我愿被建造，同眾圣徒作你圣殿，为著充满你荣耀。救我脱离乖僻个性，脱离骄傲与单独；使我甘愿服你权柄，让你有家可居住。
2. 生命供应，活水流通，长进、变化又配搭；守住等次，尽我功用，成全别人，不践踏。自己所经，自己所见，所是、所有並所能，不再高估，不再稍偏，接受一切的平衡。
3. 持定元首，联络供应，享受基督的丰富；充满神的一切丰盛，因神增加得成熟，同尝基督莫测大爱，赏识基督的阔长；长大成人，不作婴孩，满有基督的身量。
4. 作神居所，作你身体，主阿，我愿被建造，成为你的团体大器，让你来显你荣耀。圣城景色、新妇荣美，今在此地就彰显，透出你的荣耀光辉，將你照耀在人间。

840 THE CHURCH-HER BUILDING

1. Freed from self and Adam's nature, Lord, I would be built by Thee With the saints into Thy temple, Where Thy glory we shall see. From peculiar traits deliver, From my independent ways, That a dwelling place for Thee, Lord, We will be thru all our days.
2. By Thy life and by its flowing I can grow and be transformed, With the saints coordinated, Built up, to Thee conformed;

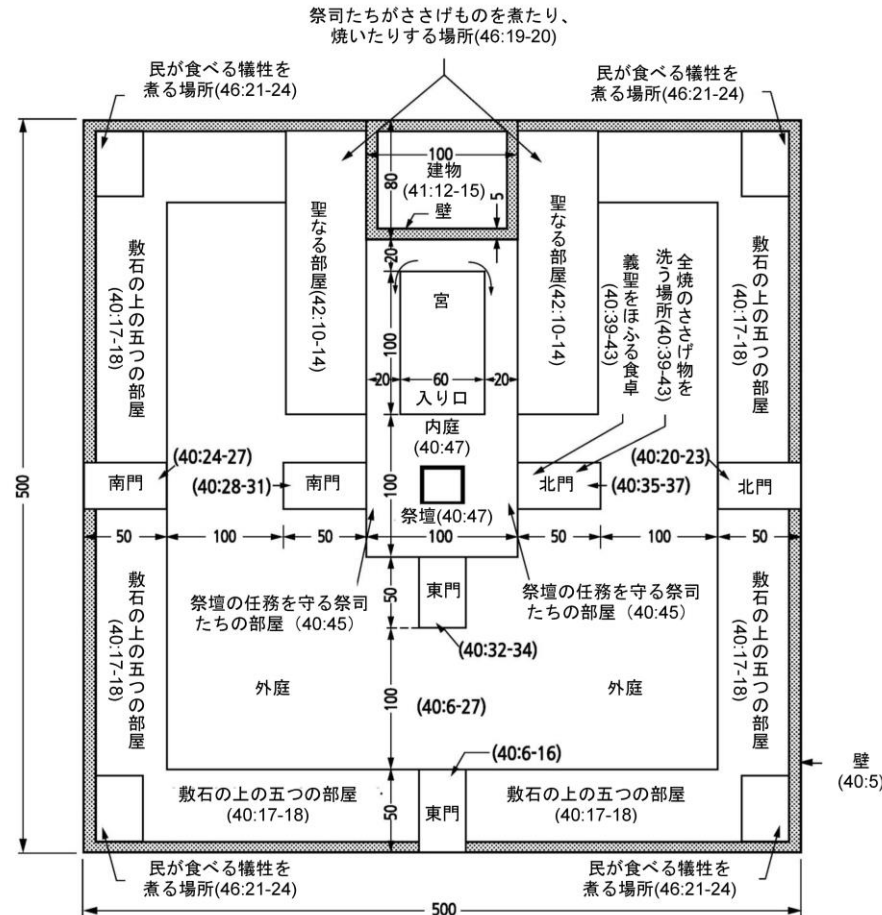
Keep the order in the Body,
There to function in Thy will,
Ever serving, helping others,
All Thy purpose to fulfill.

3. In my knowledge and experience I would not exalted be,
But submitting and accepting
Let the Body balance me;
Holding fast the Head, and growing
With His increase, in His way,
By the joints and bands supplying,
Knit together day by day.

4. By Thy Spirit daily strengthened
In the inner man with might,
I would know Thy love surpassing,
Know Thy breadth and length and height;
Ever of Thy riches taking,
Unto all Thy fulness filled,
Ever growing into manhood,
That Thy Body Thou may build.

5. In God's house and in Thy Body
Built up I long to be,
That within this corporate vessel
All shall then Thy glory see;
That Thy Bride, the glorious city,
May appear upon the earth,
As a lampstand brightly beaming
To express to all Thy worth.

図表 1: 宮と内庭と外庭の配置図



寸法の単位は「キュビト」である。

<預言のためのノート>